

学生が語る住みやすい地域について —「交通インフラ」を中心に学生と市長との懇談会の報告—

関永信子、渡辺渉、北澤葵衣、小越萌々子、柿澤はな、小林優希、丸山勇氣
松本看護大学看護学部看護学科 〒399 - 0033 長野県松本市笹賀 3118

はじめに

松本市は、郊外の人口減少や高齢化の進展、市街地の空き家問題、地域産業活性化への対応、大規模災害への対応など従来からの課題に加え、新たな社会情勢の変化に対応することが求められている。

本学が所在する松本市笹賀地区は、河西南部地域で大規模な工業団地が立地し松本市の主要な産業集積地域となっている。また地域には、県内唯一の信州松本空港を有し空港に隣接する松本平広域公園には、総合球技場、やまびこドームを始めとした運動施設があり、地域の憩いの場となっている。田園地帯には水田や果樹園が広がり、田園集落の景観が形成されている。

大学と地域との連携は、2006年の教育基本法が改正され、社会に研究成果や人材を役立てる「社会貢献」も大学の使命であることが明文化されたことで急激に進展している。この時、教育の目的は、「尊厳」を重んじることを引き続き規定し、新たに「公共の精神」を尊び、「豊かな人間性」と「創造性」を備えた人間の育成を期することや「伝統を継承」し新たな文化の創造を目指す教育を規定している¹⁾。

大学が地域貢献を推進する背景には、大学に対する地域からの期待や地域の活性化が示されている。他方大学にとっても、大学の知識が社会に還元され、社会的価値を生むことはおおきなメリットあり、大学の地域連携は大学の新しいミッションとして認識されている^{2) 3)}。大学と地域との連携は、「交流型」、「価値発見型」、「課題解決実践型」の活動がある。加えて、教員らが中心となり専門知識を用いて地域の課題の解決に貢献する「知識提供型」の活動もあり、大学と地域との連携は、大学の実情に即した多様な活動が報告されている⁴⁾。

学校法人松本学園は保育士養成の専門学校として設立以来、笹賀地区との交流・連携・協働活動が培われてきた経緯がある。しかしコロナ禍の中で多くの活動が自粛されている。

今回、松本市および笹賀地区地域づくりセンターの要請により、住みやすい地域づくりに学生の声を届ける機会を得たことに感謝したい。学生が語る住みやすい地域について、「交通インフラ」を中心に学生と市長との懇談会について報告する。

I. 準備

令和4年10月12日 笹賀地区地域づくりセンター長、中原様より松本看護大学、松本短期大学に参加要請があった。参加希望者を募り松本看護大学は、1年生3名、2年生2名を決定した。懇談会への学生の事前準備は、特に行わず日頃感じている課題や疑問を自分の言葉で表現するよう伝達した。

II. 方法

1. 目的：市長との「懇談会」における地域の課題について自分の言葉で意見を述べる
2. 日時：令和4年11月26日（土）13：10から15：50
3. 場所：笹賀地区地域づくりセンター

4. 参加学生：12名（松本看護大学5名、松本短期大学7名）

Ⅲ. 活動の内容

1. 通学路における「交通インフラ」などについて

n=12

学生の意見	市長の返答の要約
路線バスの使用に、「キャッシュレス」を使えるようにしてほしい	松本市は来年10月から「キャッシュレス」を使えるように見直しを行っているので利用してほしい。JRのSUIKAも要望があり今後検討する予定である。また来年4月より公設民営バスが開始する予定である
梓川沿い付近から通学している。国道19号線は混雑する傾向にある。改善してほしい	19号線の混雑は継続的な課題である。都市計画の際バイパス計画もあったが当時は賛同が得られなかった。道路問題は、歴史的経緯や市町村の合併を経て容易に改善できない状況にあるが、さまざまな選択肢を検討している
交差点での右折車に「松本ばしり」が見受けられる。危険運転は改善すべきと考えている	強引な危険運転は改善が必要である。松本の市街地は、城下町のつくりで道路幅も狭く右折レーンが作れない状況である。「松本ばしり」は交差点での右折車を対向車が譲り合っているとみえる。県民の譲り合いが「松本ばしり」の一面ともうかがえるので良い面ではないかと思う。
他市から松本に通っている。路線バスや列の本数を増やしてほしい。また自転車や歩行者レーンを造ってほしい。	他市と隣接する交通問題は、隣接する自治体と一緒に改善して行っている。村井駅は令和6年の改修に併せて、西側の道路整備や駅構内に学生の居場所づくりの構想がある。駅を利用する高校生や大学生の皆さんに活用してほしい
松本市街地は一步入ると道路の幅が狭く、自転車の交通は危険である。拡張が困難であれば事故防止のために、電柱を無くすことは出来ないか	松本市内は、道路拡張が困難であるが解決すべき重要な課題ととらえている。一方通行が多く道路幅も狭い。今後、道路の左側は自転車が通れるよう整備に取り組む予定で知恵を出し合って住みやすい環境を作っていく。
電車の優先席を譲る人が少ないが、地域全体で取り組めないか	優先席は誰もが自発的に譲る行動がとれる世の中が望ましい。コロナ禍の中、人の心にも余裕が少なくなっているのかもしれない。少子化の今、子供に対し寛容な世の中で子育てができる社会を皆で創っていくことが大事だ。
信号機の「赤」のタイミングが異なるのはどうしてか	信号機が設置されている道路は松本市の管轄であるが信号機は、長野県警察本部の管轄となっている。信号機に関する要望が確かめられれば提出したい。
地区により見通しが悪い所がある	道路事情はさまざま、見通しの悪い所は改善していきたい。場所にもよるが歩行者に危険が及ばない工夫をしていきたい。
公園で遊ぶ子供たちのために、公園を無くさないでほしい	子どもの遊びの場は必要であるが、公園を道路に変更する際の事前調査では、利用率の低さと老朽化が課題となった経緯があった。公園を無くす予定はない。
保育園に保育士の人数を増やしてほしい	松本市の保育所は公立4/5に対し、私立1/5である。保育士の数は規定に沿った人員配置より少し多く配置している。さらに私立に財政面の支援があるが、公立の保育園が多い松本市は恩恵が少ないのも現実である。
保育士の賃金を増やしてほしい	保育士のための賃金見直しは困難であるが、働きやすい環境づくりや身体的負担の軽減は可能だと思う。どうすれば働きやすい環境が作れるか皆で工夫が必要だ。

IV. 結果 参加学生の感想から

市長との「懇談会」参加後のアンケート調査結果について

n=5

項目	内容
I. 笹賀地区の理解は深まったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笹賀地区に通学している人の悩みを聴く機会となった ・ 村井駅に学生の居場所づくりが計画されていることなど、町づくりの計画を知る機会となった ・ 他の学生の意見を聞き深めることができた ・ 笹賀地区と大学との関りや歴史を知ることができた ・ 村井駅周辺だけでなく、松本市や他の地域の話聞き、理解が深まった
2. 自分の意見を述べることができたか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が問題に感じていることを発言できた ・ 日頃感じている、困っている事や暮らしやすさなど伝えることができた。また市長からは丁寧に納得いく回答を頂いた ・ キャッシュレスのQRコード決済の利用を意見で述べたが、来年の10月に利用が開始することを知ることができた ・ 事前に考えていたことをしっかり述べることができた。 ・ 緊張はしていたが、比較的自分の意見を述べることができた
3. 懇談会の時間や場所は適切だったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加する前は長く感じていたが、参加してみると意外に短く時間内で言い尽くせなかった ・ 大学から近く集合しやすく適切だったと思う ・ 30分のオーバーとなった ・ 机があると良かった ・ 資料があったので机があると楽だった ・ 市長と話をする機会は無いのでよい機会となった。 ・ もう少し話したいこともあった。
4. 懇談会の参加は満足でしたか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他市であるが、松本市長の話が聞いて満足した ・ 大学から近く、深い話を聞くことができた。他の学生の意見を聴く良い機会となり満足できた。 ・ 学生の要望や意見は、多くが市政で改善のために取り組んでいた。 ・ Zoomなどの手軽な方法も良い方法だと思った ・ 質問に丁寧に答えていただき、疑問を解決することができた。また計画中の事案や松本市に隣接する地域についても知ることができた。 ・ 学生は1人1問の意見であったので、「話し合い」雰囲気がほしかった
5. 懇談会内容の活用について考えている事を記述して下さい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松本のことを知り、住みやすい環境にするために何が課題か見出し変える努力をしていきたい ・ 交通問題に対して改善傾向であることを聴くことができた ・ 地域の課題に解決のために行動されているのを知ることができた松本のサイトを定期的に見たいと思った。 ・ 看護の専門職以外の人の意見を聴く良い機会となった ・ 看護職に直結する内容ではなかったが、保健師役割の理解につなげたい
6. その他 自由に記述してください	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重な意見を聴く機会をつくってくださりありがとうございました。 ・ 若者の声を聴いていただく機会を得たことに感謝します。



笹賀地区地域づくりセンター



臥雲義尚市長と参加者 12 名



笹賀地区地域づくりセンター内



懇談会の学生の様子



懇談会の学生の様子

V. 考察

学生は自らが抱く疑問や要望を意見としてまとめ、伝えることができていた。疑問や要望は時には情報不足や思い違いもあったが、市長はその一つひとつに丁寧に返答を頂いた。

今回のテーマは、「交通インフラ」についてであった。笹賀地区に通学する学生の視点で、路線バスや列車の使い勝手、交通渋滞の改善、道路事情の改善など市政が取り組んでいる課題にも介入した意見が出され、地域の課題を現実的に捉えていた。近い将来、医療を担う学生が地域の活動に参加することは、そこで暮らす人々の理解や社会性を育てる絶好の機会となる。教員として長期的な視点で支援をしていきたい。

まとめ

学生は後期の定期試験を目前に控えての参加でとなった。開学2年目を迎えた本学の地域連携は、松本短期大学が培ってきた伝統を継承し新たなミッションを築いていくことが求められている。

懇談会の参加後に、看護大学の5名の学生を対象に自由記述式にアンケート調査を行った。その結果ポジティブな感想が多く、学生同士つながりの形成や他者理解をももたらした。

今後も、地域と大学との連携の機会を学生や教員の学びの場として捉え、地域の課題に大学が参加できるよう検討していきたい。今回このような機会を設けて頂きました関係者の皆様に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 文部科学省. 教育基本法の施行について (通知) 18 文科総第 170 号 平成 18 年 12 月 22 日
https://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/06122123.htm (閲覧 2022/11/28)
- 2) 野澤一博. 大学の地域連携の活動領域と課題. 産学連携学. Vol. 13. No. 1. 2016. 1-8.
- 3) 長田 進. 地域貢献について大学が果たす役割についての一考察. 慶應義塾大学日吉紀要. 社会学. No. 26. 2015. 17-28.
- 4) 中塚雅也. 小田切徳美. 大学地域連携の実態と課題. 農村計画学会誌. Vol. 35. No. 1. 2016. 6-11.

2022.11.4 打合せ資料

 市長と住民の「こんだん会」
 ～臥巻市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～ in 笹賀地区

 日時：令和4年11月26日(土) 13:30～15:30
 会場：笹賀公民館2階・大会議室

- 1 地区のテーマ こんな松本なら戻ってきたい。住み続けたい。
- 2 進行
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 出席者紹介

松本市 市長
 笹賀地区地域づくりセンター長

参加者 松本看護大学・松本短期大学の学生約15名
 看護学部 5名
 幼児保育学科 5名
 介護福祉学科 5名

オブザーバー 笹賀地区町会連合会長
 笹賀地区福祉の地域づくり協議会長
 松本短期大学事務長
 - (4) 大学の概要説明
 - (5) 懇談内容

ア 参加者自己紹介（併せて将来の夢や希望）

イ 松本の好きなお店、誇りに思うところ

ウ 松本の嫌なお店、残念に思うところ

エ どんな松本なら将来も住み続けたい（戻って来たい）

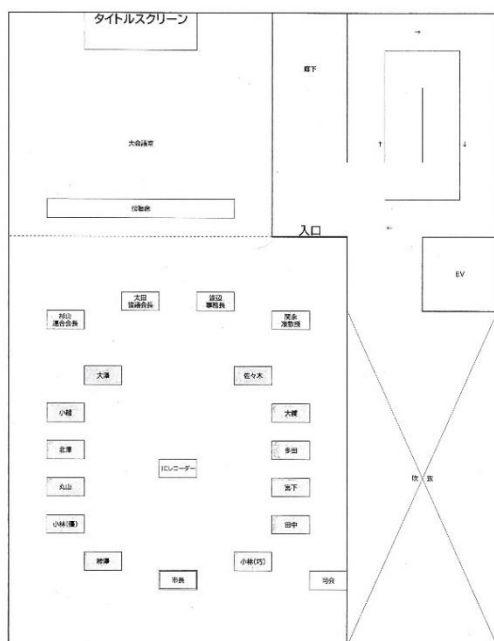
オ 最後に… ～充実したキャンパスライフを送るために～
 「キャンパスが位置する笹賀地区に一言申したい。」
 - (6) 閉会

 市長と住民の「こんだん会」
 ～臥巻市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～ in 笹賀地区
 地区テーマ「地域が学生を育て、学生が地域を元気にする。」

 日時：令和4年11月26日(土) 13:30～15:30
 場所：笹賀公民館2階 大会議室

次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 懇談
 - (1) 出席者紹介
 - (2) 大学の概要説明
 - (3) 参加者自己紹介（併せて将来の夢や希望）
 - (4) サブテーマⅠ「充実した学生生活を送るために」
 - ① 通学をはじめ、若者の行動を支える交通インフラ
 - ② 若者が活動できる場所
 - (5) サブテーマⅡ「松本に望む将来像」
 - (6) 市長所感
- 4 閉会
- 5 市長と記念撮影

 笹賀公民館2階平面図
 【座席配置図】

 市長と住民の「こんだん会」～臥巻市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～ in 笹賀地区
 出席者名簿

No.	学校名	区分	氏名	学年	出身地	備考
1	松本看護大学	看護学部	穂積 ほな	1年	松本市山辺	
2			小林 優希	1年	松本市寿台	
3			丸山 勇気	1年	松本市山辺	
4			北澤 葵衣	2年	塩尻市洗馬	
5			小越 萌々子	2年	松本市梓川	
6	松本短期大学	幼児保育学科	大澤 真叶	1年	松本市波田	
7			佐々木 凛風	1年	松本市笹賀	
8			大橋 寛汰	2年	松本市元町	
9		介護福祉学科	多田 愛梨	2年	松本市高宮北	
10			宮下 萌依	2年	松本市横田	
11			田中 里奈	2年	松本市笹賀	
12			小林 巧葉	2年	松本市笹賀	

No.	区分	氏名	役職名	備考
1	オブザーバー	杉山 佐渡	笹賀地区町会連合会長	
2	オブザーバー	太田 尚行	笹賀地区福祉の地域づくり協議会長	
3	オブザーバー	渡辺 渉	松本短期大学事務長	
4	オブザーバー	関水 信子	松本看護大学准教授	

No.	区分	氏名	職名	備考
1	松本市	臥巻 義尚	市長	
2		中原 和彦	笹賀地区地域づくりセンター長	
3		翼津原 京子	笹賀地区地域づくりセンター主査	
4		矢口 竜也	笹賀地区地域づくりセンター主事	